

とよたち

美肌通信

11月号

Vol.52





こんにちは。

ホニーテールの可愛い女の子が
外で元気よく遊んでいる今日の素敵な
表紙です。

栗やどんぐり、落ち葉が描かれ
秋を感じる絵です。

絵を描くことや、ピアノをひくことも好きで
得意なことはドッチボールだという女の子が
描いた秋らしい作品です。

院長はじめ、スタッフ一同心より感謝致します。



「つらいと思った時 既に成長が始まっている」。

そう言っておられた有名俳優がいます。

なる程 良い言葉だと私は心に留めておきました。

しかし同時にこうも思いました。これを一度悟った人にとっては確かにこれで良いかも知れません。

しかし私の様なまだ悟り前の者にとっては「つらい」

と思っただけでは成長がスタートしたとは言え

ない。なぜなら私はつねに色々な局面で、つらい・だるい・苦しい・面倒だと感じるからです。

つまり、どんな頑張り屋さんから急情な者でさえ

つらいと感じることはあるはず。その時 その場から

逃避することも可能となり そんな状況下では、

自分の成長など決して始まるはずはありません。

すなわち私なりの解釈では、「つらいと思った時には

自分が成長するきっかけだけを頂いた」。この程度です。

そこから逃げずに歩み始めた時 初めて成長がスタートする、ということだと考えます。

では歩み始めることが出来る人とそうでない人、言いかえれば「成長できる人・成功できる人とそうでない人とは何か違うのでしょうか。

それは、自分には無理だと決めつけ「出来ない」と考えて断念してしまうところにあるのだと思います。また建設的な反省をせずにただ子供の様にしほ“くれるだけ”の大人にも驚くばかりですが(社会人の中にも急増中)、その様な人もまた成長するとは到底思えません。

自己啓蒙の権威 ジョセフマーフィー博士は、「成功出来ない人の共通点は頭の中で考えるだけで実際の行動に移さないことだ」と述べています。このことから私が思うに絶対にその先へ進むという重荷を自分に課して行動した者にのみ成長を手にかかると出来ると確信します。やるかやらないかただそれだけです。

過去に「蚤のサーカス」という言葉を聞いたことがあります。蚤をフタをした背の低い箱に閉じ込める。すると何度飛び跳ねても頭をぶつけて出られないので、次第に高いジャンプをしなくなる。この時点でフタを外しても自分に限界をもうけては、た蚤はもはやフタの高さまでしかジャンプしない。「つらいと思った時に逃げる」「自分はもうダメだ」とは真にこのことに似ていると思います。

そんな私もまた、常に挫折の連続であり、この様な言葉を素直に受け入れることで再び自分を奮い立たせているのであります。

院長 拝